

デフボウリング日本代表・桜庭さん

## 「挑戦できる環境を」

母校・函館聾学校で講演

昨年11月の聴覚障害者の国際大会「東京デフリンピック」にボウリング日本代表として出場した函館市の会社員桜庭まどかさん(37)による保護者向け学習会が12日、母校

の函館聾学校で開かれた。聴覚障害がある子供の保護者に、子育てのヒントを得てほしいと同校が企画し、保護者5人が参加。桜庭さんは1歳で先



天性の感音性難聴と診断され、医師の紹介で同校の乳幼児相談室に通い始めた。小・中学部時代は現在とは異なり授業が手話ではなく口話中心で、

「内容が理解できず不安だった。大好きな体育の時間が心の支えだった」と振り返った。小樽市の

北海道高等聾学校時代はインターハイ出場を目指して陸上競技に打ち込んだことも紹介した。現在は小学5年生の息子を育てる母でもあり、「子供

たちは自分のペースでゆっくり力を伸ばす。大切なのは安心して挑戦できる環境があること」と呼びかけた。

4歳の娘が幼稚部に通う主婦の岩本加奈美さん(36)は「小さい頃の苦労を乗り越えて輝く桜庭さんのように、娘も自信を持って生きていってほしい」と話していた。

(白石翠)

保護者向けの学習会で、子供時代の経験などを手話で伝える桜庭さん